

# NEWSLETTER



平成15年度

京都市総合教育センター

## 教育研究発表会

日時：平成16年2月28日（土）午後1時～4時30分（12時30分より受付）  
場所：京都市総合教育センター 永松記念ホール・第1・3研修室

すでに各学校・園にお配りしましたように、本年度の教育研究発表会が近づいて参りました。全体会、三つの分科会ともに、皆さんに「参加してよかった」「参考になった」「考えさせられた」と受け止めていただけるものにしていきたいとそれぞれ準備を進めています。公務ご多忙の折とは存じますが、ぜひ、ご参加ください。

全体会では... 永松記念ホール 午後1時～2時30分

パネルディスカッション **確かな教育の営みを継承し発展させるために**

-キーワードで示す これからの京都の教育、これからの学校、これからの教育センター-

<パネリスト> 谷口 賢司 教育政策監・総合教育センター所長

森田 恒雄 総合教育センター顧問・指導室長

橋本 靖弘 総合教育センター顧問・カリキュラム開発支援センター長



これまで、京都市の教育を牽引してこれ、現在、総合教育センターのそれぞれ責任ある立場におられる三人の方々に登壇いただき表記のテーマについて、それぞれにひとつずつキーワードを提示していただきます。はたして、どのようなキーワードが私たちの前に提示されるのか、たいへん興味深いものであると同時に、きっと日々の教育活動の充実の方向が指し示されるパネルディスカッションになることと思います。

分科会では... 永松記念ホール、第1研修室、第3研修室 午後2時40分～4時30分

本年度、関係各課と連携し、それぞれの研究協力校や研究協力員の先生方とともに進めてきた9つの研究の成果を報告します。各報告では、全国的な教育の動向をふまえて取り組んだ研究のポイントとともに、設計した指導計画や指導案、活用したワークシート、あるいは作成した調査問題など、各学校や学級ですぐに活用していただける具体的な資料を参加されたすべての皆さんにお配りできるように準備を進めています。以下にその概要を示しました。

それぞれの分科会は、時間を揃えて行いますので、自由に会場を移動して関心をもたれた報告を選んでお聞きください。

分科会		於 永松記念ホール
時間	内 容	配布資料
2:40	<p>〔小学校 特別支援教育〕ADHD及びその周辺の児童に対する教育的支援の在り方 -連携・協力の充実とそれを支えていくシステムを築くために- 【小松 晃子 研究員】</p> <p>本研究は、ADHD 及びその周辺の児童に、より充実した支援を行うために、校内の協力や保護者との連携に加えて WISC- などの心理検査や専門家からのアドバイスを取り入れて進めてきました。今回は、具体的な授業の中で取り組んだ教育的支援の例と、それに向けて築いた支援システムの実例を紹介します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども理解のための気づきのリスト</li> <li>子どもの思いを知る学級アンケート</li> <li>具体的な支援を明記した指導案の例 等</li> </ul>
3:15	<p>〔小・中学校 算数・数学教育〕「わかる楽しさ」を追究した算数・数学の試み -小・中連携による算数・数学の一貫した学習プログラム例の開発- 【藤野 盛二 研究員】</p> <p>基礎・基本の確実な定着とともに算数・数学の学びのよさを感じとる子どもを育成するには、小・中が連携した一貫指導が必要であると考えています。本報告では、算数・数学の学習指導のつながりに着目し、小学校第6学年と中学校第1学年の「数量関係」領域の単元を連続する単元として取り組んだ学習プログラム例を報告します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中9年間の学習内容（概略）の一覧表</li> <li>小中一貫指導計画（小6比例・変わり方を調べて、中1比例と反比例を大単元ととらえた29時間の指導計画と資料） 等</li> </ul>
3:50	<p>〔小・中学校 生活実態基本調査〕 京都の子どもたちの「今」 -小・中学生3000人の生活実態基本調査から- 【川田 雅康 研究員】</p> <p>本研究では、京都の子どもたちの生活と意識の実態を客観的に把握するために、小学校第4・第6学年、中学校第2学年、各学年約1,000人を対象に質問紙調査を実施しました。今回は、調査を通して明らかになった「生活のリズム」「家庭での生活の様子や学習」「学校での学習と生活」の実態とともに、そこでの自分や他者に対する子どもたちの意識についても報告します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活のリズムと学習</li> <li>生活の様子と家庭学習</li> <li>学校での学習と生活</li> <li>自己、友だち、親、先生、社会に対する子どもの意識 等 調査結果の一覧</li> </ul>

分科会		於 第1研修室
時間	内 容	配布資料
2:40	〔小・中学校 理科教育〕 「理科大好き」という子を育てる - 主体的に問題を解決する子の育成をめざした小中一貫指導 - 【柴山 敦亮 研究員】 本研究では、「理科大好き」という子を育成するために、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることが大切であると考え、小学校第3学年から7年間を見通して、つながりのある単元を大きな単元としてとらえて学習指導を進めていくことにしました。今回は、小・中の指導者と連携して作成した、「電気」についての学習プログラム例(全72時間分)を報告します。	・小中7年間の学習テーマごとの単元別評価規準一覧表 ・小中を貫いた電気にかかわる学習の指導事例(小4電池のはたらき、中2電流とその利用) 等
3:15	〔中学校 英語教育〕 「タスク」を取り入れた中学校1年生での英語学習の試み - 実践的コミュニケーション能力の基礎の育成をめざして - 【多田 泉 研究員】 実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を図るためには、授業の中で生徒に実際のコミュニケーションを経験させることが必要です。本研究では、文法シラバスを柱とした本市指導計画の中に「タスク」を取り入れた中学校第1学年の学習プログラム例8ユニットを開発しました。本報告では、三校で実施した実証授業での生徒の様子から、その有効性を報告します。	・本市指導計画の中で活用できる「タスク」を取り入れた中学校第1学年の学習プログラム例8ユニット(8時間分) ・Unit1~8のワークシートと教材例 等
3:50	〔小学校 学習評価〕 いま、「総合的な学習の時間」を見直す - 評価規準設定のキーワードとは - 【中村 隆 研究員】 本研究では、「総合的な学習の時間」の評価を行う上での7つのキーワードを示し、観点や評価規準設定の手順や考え方、自己評価活動との関連などについて提言します。今回の報告では、この時間の評価に関するアンケート調査の結果を示すとともに、観点、内容・テーマ、単元をシミュレーションした評価規準例を示します。	・「総合的な学習の時間」の評価に関するアンケート調査結果 ・ルーブリックによる系統性を表した観点例や単元レベルでの評価規準例とその指導計画例 等

分科会		於 第3研修室
時間	内 容	配布資料
2:40	〔小学校 学習指導意欲調査〕 学習意欲を高める学習指導への改善の視点 - 京都市小学校学級担任670人の学習指導調査から - 【小嶋 忠行 研究員】 子どもたちの学習意欲を育てるための指導の工夫改善が求められている中、実際にどのような意図や方法で指導形態や学習形態の編成が選択されているのか、お互いに知り合うことが大切です。本報告では、小学校4年・6年の学級担任の方々にご協力いただいたアンケート調査の結果から、本市の先生方がとらえている学習指導の工夫改善の視点を紹介します。	・「指導形態」「学習集団の編成」の利点・課題・効果に関するアンケート結果 ・「指導形態」「学習集団の編成」それぞれの利点を生かした指導事例 等
3:15	〔小学校 読書活動〕 「読んでみたい、もっと読みたい」と思う子の育成をめざして - 読書活動計画の作成とその実践例 - 【寺島 三矢子 研究員】 読書に親しむ子どもを育てるには、本との豊かな出会いにつながる読書活動を充実させることが必要です。本研究では、国語科の目標「C読むこと」を手がかりに、他の教科でも学習との関連を踏まえて取り組める読書活動計画を作成しました。今回は、この読書活動計画を基に取り組んだ第1学年から第4学年までの国語科学習の実践例を報告します。	・第1~第4学年におけるそれぞれ1単元分の指導計画と読書活動案、及びブックリスト ・第1~第6学年の読書活動の目標と主な内容の一覧 等
3:50	〔小学校 道徳〕 心に響き心が動く道徳学習 - 地域とつながり、地域を生かした総合単元的な取組から - 【田中 尚美 研究員】 子どもたちの心に生きてはたらく道徳学習が求められています。本研究では、教科等での地域と結びついた学習活動における子どもたちの心の動きと道徳の時間の指導とを響き合わせる総合単元を構想し、プログラム例を開発しました。今回の報告では、地域素材や地域の人の思いを教材化して取り組んだ第2・第4学年の実践例と、全学年の年間指導計画改善例を提示します。	・教科等の学習活動と関連を図った第2学年及び第4学年のプログラム ・道徳の時間の年間指導計画改善例(6学年分) 等

- ・当日は時間の都合上、各研究の概略の発表となります。詳細につきましては、4月に各学校に送らせていただく「研究紀要」をご覧ください。
- ・なお、参加申し込みの締め切りが2月20日(金)となっておりますので、お早めにお申し込みください。

### カリキュラム開発支援センターから『新着情報』をおとどけます!!

カリキュラム開発支援センターには、連日多くの方々から、魅力ある授業の創造や活気にあふれた学級づくりにご活用いただいています。

そうした皆様のご要望に応えるべく、新刊図書や新着ビデオ、各校や研究会から提供いただいた研究紀要、研究冊子などの情報をはじめ、センター発のホットな情報を今月より『カリキュラム開発支援センター新着情報』としていち早く、このニュースレターとともにお届け致します。各校で掲示していただくなどして、研究や研修の充実に向けた参考資料の検索などにご活用ください。